

鳥取大学研究成果リポジトリ

Tottori University research result repository

タイトル Title	「一式飾り」探訪記：第4回 作り手と観客の「知恵比べ」
著者 Author(s)	Takahashi, Kenji
掲載誌・巻号・ページ Citation	島根日日新聞：5 - 5
刊行日 Issue Date	2018-03-14
資源タイプ Resource Type	論文 / Article
版区分 Resource Version	出版社版 / Publisher
権利 Rights	注があるものを除き、この著作物は日本国著作権法により保護されています。 / This work is protected under Japanese Copyright Law unless otherwise noted.
DOI	
URL	http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/6231

「一式飾り」探訪記

鳥取大学地域学部准教授 高橋 健司

第4回

の陶器一式の作品を見慣れた方の目には、どのように映るであろうか。一見すると、餅つきに使った杵(きね)、蒸籠(せ)

もしれない。ところがタイトルを手がかりに想像力を働かせる、重ねた白や蒸籠が大國主に見え、しゃもじと杵も次第にウサギに見えてきて、これが神話の物語の一面を表していることに合点がい

調を旨とする「見立て」の趣向と写実性は相容れない。これは鳥根の「一式飾り」にとって他人ごとの話ではない。「平田一式飾り」の中興の祖として知られる千把雲陽氏もまた、「写生的説明的なもの」ばかりを受けて「寓意的な表現を見てくれぬ」と嘆

このように「法勝寺一式飾り」には、作品に制作者の「謎かけ」が込められ、観客は作品の「謎解き」をゆっくりと味わう伝統がある。それは作り手と観客、双方の「見立て」の力量が試される「知恵比べ」のようである。

現代は分かりやすさが求められる時代と言われるが、「一式飾り」が分かりやすくリアルになっただけで、模型や工作と変わらなくなるのではと危惧する。

しかし、こうした楽しみ方のできる作品は多くはない。法勝寺では餅つき道具一式の他にも、陶器一式、漆器一式、竹製品一式など、さまざまなお道具を用いた作品を見ることが

ファーストフードに対して伝統的なスローフードが見直されているように、「一式飾り」の「知恵比べ」というスローな楽しみ方もまた、見直されるべきではないだろうか。人が頭を使って考える余地を残す「見立て」の趣向にこそ、「一式飾り」が失ってはならない大切な価値がある

加を憂えているが、省略と強



島根にお住いの読者の皆さんは、鳥取にも「一式飾り」があることをぜひ存じたい。今回は鳥取県南部町法勝寺地区の「法勝寺一式飾り」を紹介したい。

島根の「一式飾り」は各地の夏祭りや飾られるのに対し、鳥取の法勝寺では「さくら祭り」で飾られている。

かつては旧正月の「とんどさん」(左義長)の行事として冬に行われていたが、1968年から法勝寺川に沿って並ぶ桜の開花に合わせて、春の行事として行われるようになった。

作り手と観客の「知恵比べ」



写真をご覧いただきたい。これは2016年4月に法勝寺で飾られた「因幡の白兔」という作品である。法勝寺自治会で長年「一式飾り」を担当してきた堤一真氏